

## 10 体験活動への展開

読書を通して学んだことや感じたこと、考えたこと等を発表したり、年齢を超えて交流したりする体験は、子供が、より一層読書をしようとする意欲や読む力を高めることにつながります。

### 目 標

#### 【目標①】市町における「子ども司書」養成講座の実施

☑18市町以上で実施します。

#### 【目標②】県立図書館において青少年の読書活動の推進につながるモデル的な取組

☑毎年実施します。

### 現 状

#### ▼「子ども司書」養成講座実施市町

平成 25 年度 : 18 市町

#### ▼モデル的な取組

県立図書館では、平成 25 年度に実施した「図書部！！」など、青少年の読書活動の推進につながるモデル的な取組を実施し、ホームページ等で積極的に情報提供をしています。

### ～ 目標を達成するための具体的な取組 ～

#### ➤ 子供読書活動推進リーダーを育成します！

○ 子供は、大人から読書の楽しさを教わるだけでなく、子供同士で本を紹介し合うことで読書の楽しさを味わいます。児童生徒の中に読書活動を推進するリーダーを育成し、育成したリーダーが学校や地域で読書の楽しさや大切さを広めていく取組が大切です。

平成22年度から始まった「子ども司書」養成講座などをきっかけに、全体研修や公立図書館での実地研修、学校での実習、ポップの作成等を行い、地域や学校のリーダーが育っています。

- ・ 子供読書活動推進リーダーを育成する市や町への支援を行います。



「『子ども司書』の活躍」  
(竹原市立大乘小学校)



「平成 24 年度『子ども司書』認証式の様子」

「子ども司書」が学校で児童に読み聞かせをしたり、全校にポップの作り方を教えてポップコンテストを行ったりしている学校もあります。

「本と私」子ども司書認定から三年」  
広島中学校 大槻 春歌

人に本を勧めることは、自分や相手の本の世界が広がることにつながると思う。

三年前、子ども司書養成講座に参加した。本のおもしろさをみんなに伝えようという読書リーダー養成の一期生に私はあたる。その活動の中でポスターを作ったり、読み聞かせを行ったりした。中でも心に残っているのが当時五年生の私が一学年上の六年生に行ったブックトークだ。おもしろいからみんなにも読んでほしいと思う本を五冊選んで紹介した。テーマはミステリー。(略) 一つ上の学年だからとても緊張した。でも六年生が

「私もその本好きです」「続きが読みたいので絶対読みます」「シャーロック・ホームズシリーズって知ってる？それもおもしろいよ。」と感想を言ってくれたのでとても嬉しかった。その後、私はシャーロック・ホームズシリーズを読破することになる。(略) 本の魅力とは何か。やはり一番は自分の世界を広げられることだと私は思う。本を読むことで、様々な想いをめぐらせて思考を深めることができる。それは私を作っていく栄養の一つになる。

これからも多くの人と、本について交流し、広がる本の世界を楽しんでいきたい。

「平成 25 年度『ことばの輝き』優秀作品コンクール応募作品から」  
小学生の時に「子ども司書」養成講座に参加した中学生の作文



## ➤ 県立図書館では青少年の読書活動の推進につながる取組を行います！

- 県立図書館では、青少年を対象とした読書活動の推進につながるモデル的な取組を実施します。
  - ・ 県立図書館では、青少年の読書活動の推進につながる体験活動等を毎年行い、その成果をホームページで紹介します。
  - ・ 図書館職員研修や、教職員向け出前講座等で情報提供を行います。

県立図書館のホームページ「青少年のページ」では、本に関する情報のほか、進路や就職に関するリンク集や心や体の悩みを解決するためのヒントとなるリンク集、青少年を対象とした読書活動の推進につながるモデル的な取組についても掲載しています。

また、「ビブリオバトル<sup>※1)</sup>」や、本の紹介ポップ作り等体験活動の様子を紹介しています。

<http://www.hplibra.pref.hiroshima.jp/hp/menu000001700/hpg000001671.htm>



「平成 25 年度『図書館！！』」  
(県立図書館)

== 用語解説 ==

<※1>ビブリオバトル

書評合戦(ビブリオバトル)の基本的なルールは、以下のとおりである。

- ① 発表者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ② 順番に一人5分程度で本を紹介する。それぞれの発表後に参加者全員でその発表に関する意見交換を2～3分程度行う。
- ③ 全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決定する。

書評合戦(ビブリオバトル)の効果としては、ゲーム感覚で楽しみながら本に関心をもつことができること、自ら本を選ぶ力、語る力が育つこと、読んでみたいと思える本に出会える機会が増えること等が挙げられる。

(「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」文部科学省 平成25年)